平成27年度第２回大阪府障がい者自立支援協議会地域支援推進部会議事概要

日　時：平成2８年３月7日（月）午後3時～

場　所：ホテルプリムローズ大阪　羽衣

出席委員：奥田委員、片岡委員、北野委員、小阿弥委員、河野委員、小尾委員、谷口委員、辻井委員（ＷＧ長）、南委員、山口委員、山本委員〔五十音順〕

オブザーバー：森脇 守口保健所長兼寝屋川保健所長

【議題１】精神障がい者地域移行推進ワーキンググループの検討状況について

* 事務局より資料１に沿って説明
* 委員意見等
	+ 精神障がいの方を主に受け入れる短期入所がないことが課題
	+ 東大阪市では医療機関が持つ部屋を試行的に体験宿泊の場として実施。市に要望したが制度化には至っていない。
	+ 体験居室については、退院促進事業でグループホームの1室を利用して府が行っていたが、市町村で行うこととなった経緯がある。それをもう一度行うのであれば、自立支援給付の体験評価も合わせて活用できれば良いのではないか。
	+ 地域移行支援制度に行くまでの取り組みができないだろうか。
	+ 地域偏在、大阪は交通の便が良いので大きく取り上げる必要はないのではないか。
	+ 大阪府における地域偏在の課題は、大阪市の方が特に泉州地域の精神科病院に入院していることにより、地域生活移行を考えた際、交通費の問題がある。
	+ 大阪市・堺市・大阪府が一緒になって取り組まないと、地域生活移行も進まない現状に対して、まずは協議の場を設ける。
	+ 地域偏在において、責任性や意識という意味でも主体的に大阪市に取り組んでいただかないといけない。

【議題２】基盤整備促進ワーキンググループに関する協議事項について

* 事務局より資料２～５に沿って説明
* 委員意見等
	+ 地域生活支援拠点について全国で先駆的な取り組みをされているところ情報収集はいかがか。

[事務局回答]　　全国的にも進んでいない。平成27年度の国のモデル事業　　　　は、検討の費用しか認められていないので期待できない。平成26年度に国の研究費でまとめられた報告書の方が参考になる。

* + 進んでいない現状で3つの検討を行うということか。

[事務局回答]　　中でも取り組みたいのはモデルパターンの検討です。

* + 障がい者の高齢化進んでいる。高齢者支援と障がい者支援のギャップある。
	+ 地域の中で年齢や障がいに応じて、作り上げていかないといけない。決まったものがあるわけではない。
	+ 圏域で短期入所を整備したとき、それが使えるのか使えないのかが課題になる。一度ヒアリングや知見をとってみたほうが良いと思う。
	+ 地域に資源があるというだけではなく、ネットワークとして機能しないといけない。地域の課題に対していろいろな実践を共有した時に、誰かがコーディネートして出来上がっていったものが拠点ではないか。

[事務局説明]　　吹田市、豊中市のように市が主体となって課題を解決する　　　　方策として、法人と話し合って、拠点（ハード整備）をつくる場合。水平連携的に事業者がネットワークを作る場合（基幹相談支援センターが近い機能）。どのような形も排除しない。

現在ある資源を使って課題の解決をするという認識を皆さんが持っていただけたらと考えている。

地域の課題に対して解決していくため関係者が協力し合い、顔の見える関係を構築していく仕組みをもって拠点と呼べるようにしたい。

* 事務局提案で進めていくことで委員了

【その他】

* 平成28年度の部会の開催については、上半期と下半期に年2回程度開催予定